



## 世界自閉症啓発デーシンポジウムに寄せる国連事務総長からのメッセージ

本日の世界自閉症啓発デー2016・日本シンポジウムに参加されています皆様にごあいさつできますことを、嬉しく思います。

ご存じの通り、自閉症は生涯にわたるものであり、世界には何百万もの自閉症のある人々がいます。しかし、多くの国々で自閉症はまだ十分に理解されていません。なかには自閉症のある人々を疎んじる社会もあります。これは、著しい人権侵害です。

本日のシンポジウムのように、世界的に盛んになっている自閉症啓発運動を私は歓迎します。また、国際連合は、自閉症のある人々を含む障害のあるすべての人々の側に立ち、その権利や展望、福祉に目を向け、誰ひとり取り残さないという姿勢を「持続可能な開発のための2030アジェンダならびに誓約」における重要な柱として示しています。（この2030アジェンダは、貧困や不平等、天然資源の保護などの課題に対して2030年までに取り組む地球規模の行動計画であり、2015年9月の第70回国連総会で採択されたものです）

国際社会は今、この「2030アジェンダ」を実行に移そうとしています。

この展開に、自閉症のある人々が、主体者あるいは受益者として積極的に参加または関与することを、私は求めます。当事者の参加は、「2030アジェンダ」の目指すインクルーシブな社会を実現するために欠くことができない要素です。

また、政府と社会の全ての参加者にも、国連障害者権利条約10周年記念を前にして、自閉症のある人々の権利を向上させ、重要な社会の構成員の一人と位置づける努力を進めることを、私は求めます。

このような中で、日本が、自閉症をはじめとする発達障害のある人々の権利と福祉の向上を重要な課題として捉えて取り組んでいることを、私は称賛します。日本の取り組みを世界中が共有することは、自閉症のより一層の啓発やインクルーシブな社会の実現を加速することにつながります。

全ての社会が自閉症のある人への“誤解”ではなく“思いやり”へと転換し、自閉症のあるすべての人々が“自らの大きな可能性を実現”できるように手助けし、尊厳と機会のある世界を実現するときは、世界中で、今すぐそこに来ていることを、皆さんと一緒に本日は祝いたいと思います。

2016年4月 東京 国連事務総長 潘基文（ぱん ぎむん）